

NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08 International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 Fax : 65-6227-2995 E-mail : sales_sg@nna.asia

MCI(P)103/06/2018 Company Reg No.199500734E

テンセント系ネット銀と研究所 南洋大、新金融サービス創出狙う

シンガポールの南洋工科大学（NTU）は1月31日、中国のIT大手、騰訊（テンセント）系のインターネット専門銀行、微衆銀行（ウィーバンク、WeBank）と共同で開設したフィンテック（ITを活用した金融サービス）に関する研究開発（R&D）センターの開所式を行った。いつでもどこでも銀行サービスが利用できる環境を整備する産業改革「バンキング4.0」の取り組みの一環。行動ファイナンスやブロックチェーン（分散型台帳）などを生かした新たなネット金融サービスの創出を目指す。



NTUとウィーバンクが設立したフィンテックR&Dセンターの開所式には、ウィーバンクのデビッド・クー会長兼CEO（左から2人目）やローレンス・ウォン国家開発相（中央）らが出席した＝1月31日、シンガポール西部（NNA撮影）

NTU内にある新センターの名称は「共同NTU・ウィーバンク研究センター・オン・フィンテック」。5年契約で、NTUとウィーバンクの研究員やエンジニアら計35人が共同研究プロジェクトに取り組む。NTUからはコンピューターサイエンス学部や社会科学部の研究員が参加する。投資額は明らかにしていない。ウィーバンクの担当者によると、同社がシンガポールの大学と研究活動で提携するのは初という。

ウィーバンクは、テンセントが中心となって2014年12月に設立した。中国で金融機関以外の民間企業が初めて設立したネット専門銀行だ。実店舗を持たず、個人や中小企業を中心に小口融資サービスを提供。従来の担保に代わって、ビッグデータや生体認証技術を活用した信用評価システムを導入している。ビッグデータは、テンセントが展開するチャットアプリ「微信（ウェイシン、WeChat）」や会員制交流サイト（SNS）「QQ」などを

通じて収集する。

個別の資産運用サービスなど開発

新センターでは、フィンテックを活用しながら顧客の需要に個別対応できる次世代金融サービスの創出を目指す。製造業の生産効率化を図る「インダストリー 4.0」の流れを受け、金融業界でデジタル化を促進する「バンキング 4.0」の実現を目指す取り組みの一環となる。

具体的には、行動ファイナンス理論に基づく分析を通じて、いつでもどこでも資産運用の個別サービスを提供できる技術を開発する。従来の経済理論は、「人は利益を追求して常に合理的な行動を選択する」という考え方が主流だった。一方で、行動ファイナンスは人間の心理状態や感情を考慮して「人間の非合理性」に着目した理論。富裕層だけでなく、それ以外の顧客層にも資産運用の助言サービスを効率的かつ柔軟に提供できるよう分析技術を発展させる。

IoT や機械学習も活用

このほか、ブロックチェーン技術を利用したバンキングサービスの拡充、モノのインターネット (IoT) や機械学習を使った新デジタル金融サービスの開発を進

める。IoT では、見込み客に絞ったデジタルマーケティングでの活用を目指す。

N TU のスプラ・スレッシュ学長によると、新センターでは今後数カ月で、フィンテックを活用したデジタルバンキングの具体的な活用例を特定し、今後の開発につなげるという。

開所式に出席したウィーバンクのデビッド・クー会長兼最高経営責任者 (CEO) は、「当社は、従来なら銀行から融資を受けられなかった中小企業、個人に金融サービスを提供できるよう技術開発を進めてきた。現在の顧客数は 1 億 2,500 万人に上り、法人顧客の 3 分の 2 はそれまで融資を受けたことがなかった企業だ」と説明。新センターでは、ブロックチェーンや IoT を生かした金融サービスだけでなく、全く新しい分野を切り開くような研究にも期待したいと話した。

同じく式典のあいさつに立ったローレンス・ウォン国家開発相は、「フィンテックの発展に伴い、『将来は銀行の実店舗がなくなる』との見方も一部にあるが、金融業界には人間の知識・経験を生かしたサービスや、人的交流も必要だ。最新デジタル技術と人間の知識の両方を合わせることでシナジー (相乗効果) が生まれる。これを実現するには新センターのような R & D 施設が必要だ」との見解を示した。

【シンガポール—経済】